

## エンドオブライフケア研究会 30年のあゆみ

### 1. 定例研究会

昭和62年6月～平成28年2月まで157回の定例研究会を開催

### 2. 特別講演

発足年目	開催年月	テーマ	講師名 (敬称略) ／所属 (講演当時)
1	昭和63年 3月	ターミナルケアの概念	寺本 松野 聖母病院
2	昭和63年 4月	アメリカのホスピス事情	山崎 章郎 八日市場市立病院
3	平成元年 4月	末期患者ケア	斉藤 武 ライフプランニングセンター
4	平成2年 4月	ターミナルケアと仏教	藤木 雅清 臨死問題研究会
5	平成3年 4月	わが国では癌性疼痛コントロールがどのくらい進歩したか	平賀 一陽 国立がんセンター中央病院
6	平成4年 4月	がんの病名を告げる	種村 健二郎 国立がんセンター中央病院
7	平成5年 4月	ホスピスケアの実践の中で考えていること	丸口 ミサエ 国立がんセンター東病院
8	平成6年 4月	病名告知とQOL	村上 国男 国立療養所多摩全生園
9	平成7年 4月	がんを知って歩むこと (I can cope program)	季羽 倭文子 ホスピスケア研究会
10	平成8年 4月	ターミナルケアの周辺	彦坂 泰治 生と死を考える会
11	平成9年 4月	ホスピスの現場から —MSWの視点で—	磯崎 千枝子 上尾甞生病院
12	平成10年 4月	ターミナルケアと音楽療法	篠田 知璋 聖路加国際病院
13	平成11年 4月	わが国の緩和ケアの現状とこれからの課題	志摩 泰夫 国立がんセンター東病院
	平成12年 2月	Saint John's Hospiceにおけるホスピスケアの 実際 (*定例研究会から講演会へ変更)	Karen Ann Riggs Saint John's Hospice
14	平成12年 4月	緩和ケア病棟のケアの実際	中村 めぐみ 聖路加国際病院
15	平成13年 4月	国立がんセンター中央病院における緩和ケアの現状 と今後の展望	下山 直人 国立がんセンター中央病院

16	平成 14 年 4 月	がんの鎮痛薬について	水口 公信 山王病院
17	平成 15 年 4 月	在宅でのターミナルケア	福井 みさ江 わかば訪問看護センター
18	平成 16 年 4 月	在宅緩和ケア、その問題点と課題 —心のケアの視点から—	大岩 孝司 さくさべ坂通り診療所
19	平成 17 年 4 月	ピースハウスでのターミナルケアの実践	二見 典子 ピースハウス病院
20	平成 18 年 4 月	君津中央病院での緩和ケアの実践	鈴木 紀彰 君津中央病院
21	平成 19 年 4 月	がん末期患者への支援 —ケアマネジメントのポイント—	大木 信子 匝瑳市民病院
22	平成 20 年 4 月	各国の緩和ケアシステム	木下 寛也 国立がんセンター東病院
23	平成 21 年 4 月	緩和ケアにおけるピアサポート	野田 真由美 千葉県がんセンター
24	平成 22 年 4 月	在宅におけるターミナルケアの現状と課題	五味 博子 五味クリニック
25	平成 23 年 4 月	在宅医療の政策と今後の展望	山岸 暁美 厚生労働省 医政局政策医療課
26	平成 24 年 4 月	がん診療を通して ‘死’ について考える—嘔吐を契機 に診断された 30 代女性患者の 30 日を振り返って—	奈良林 至 埼玉医科大学国際医療センター
27	平成 25 年 4 月	医療環境の中の子どもへの支援—チャイルドライフ スペシャリストの視点から小児がん患児、がんの親 を持つ子ども達へのケアを考える—	大曲 睦恵 聖路加国際病院 国立国際医療研究センター
28	平成 26 年 4 月	生き方上手 逝き方上手 —緩和ケア病棟で出会った方々—	佐藤 拓道 医療法人社団八心会 上田病院
29	平成 27 年 4 月	在宅療養支援における薬剤師の役割 —薬剤師だからできる支援と課題—	高崎 潔子 株式会社タカサ
30	平成 28 年 5 月	グリーフケア —看取る人々に心を寄せて—	高木 慶子 上智大学グリーフケア研究所

### 3. 記念会

名称	開催年月	テーマ	開催場所
千葉ターミナルケア研究会 15 周年記念会	平成 15 年 2 月	千葉ターミナルケア研究会 15 年の あゆみ	ウェルサンピア 千葉
千葉ターミナルケア研究会 30 周年記念会 (第 30 回特別講演を兼ねる)	平成 28 年 5 月	人生の最終章を考える —看取る人、看取られる人へのケア—	千葉県文化会館